

科目の内容（シラバス）

②授業科目名	③必修／選択の別	④単位数	⑤含む必須の教育内容番号	⑥担当教員名	⑦実施形態
日本語文化論（日本語学）	必修	2	5・8・9・37・38・46・47	小川 俊輔	対面
⑧授業のテーマ及び到達目標	【授業の目標】 ①各時代の日本語の特性・機能・しくみについての基礎知識を得る。 ②現代日本語の多様性についての認識を深める。 ③日本語の歴史的変遷過程についての認識を深める。 ④歴史的視点から物事を見つめ、対処する態度・姿勢を身につける。 ⑤自らのことばを豊かにしようとする姿勢・態度を身につける。 ⑥常識を疑い、常に新鮮な視点で物事を見つめ、対処する態度・姿勢を身につける。 【知識・技能の観点】 主に日本語を中心とした言語の構造・意味・機能などについて十分な知識を有している。 【思考力・判断力・表現力の観点】 日本語に関する様々な言語現象について先行研究の成果と課題を踏まえ、適切に調査を行い、実体を記述し、論理的に考察し、学術的レポートとして報告することができる。 【主体性・協働性の観点】 日本語に関する様々な言語現象に高い関心を示し、他の学生と協働的に学究することができる。				
⑨授業の概要	人間の言語の特性・機能、現代日本語のしくみ・多様性について、具体的な事例に基づいて教授する。「日本語文化論」系科目の基礎科目として、現代日本語の音声、音韻、語彙、意味について取り扱う。その際、社会言語学的な位相差や言語政策についても触れ、多言語（・方言）と比較・対照の視点を持つ。				
⑩授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む必須の教育内容番号
1	ガイダンス、日本語学の関連分野（一般言語学、社会言語学、対照言語学、言語政策など）				5・8・9・37・38
2	世界の言語と日本語（言語と方言の違い、言語系統論）				8・9
3	日本語は世界の諸言語と比較して特殊な言語か？				8・9
4	現代日本語の音声と音韻①母音と子音				8・9
5	現代日本語の音声と音韻②アクセントの基本				8・9
6	現代日本語の音声と音韻③アクセントの変化、方言アクセント				8・9
7	現代日本語の音声と音韻④しりとりと早口言葉				8・9
8	現代日本語の語の語彙①語彙の性質、語彙調査と語彙量、基本語彙				8・9
9	現代日本語の語の語彙②語種				8・9
10	現代日本語の語の語彙③語構成				8・9
11	現代日本語の語の語彙④位相				8・9
12	現代日本語の語の意味①意味の体系				8・9
13	現代日本語の語の意味②類義語・同義語・対義語、意味の変化				8・9
14	期末レポート発表会①（出店形式、全員発表）				8・9・46・47
15	期末レポート発表会②（優秀レポート執筆者によるPPTを用いたプレゼンテーション）、授業内容のまとめ				8・9・46・47
⑪使用テキスト	プリントを配布する				
⑫参考書・参考資料等	文部科学省『中学校学習指導要領』、同『中学校学習指導要領解説 国語編』、同『高等学校学習指導要領』、同『高等学校学習指導要領解説 国語編』の他は授業中に紹介する。				
⑬同時双方向性の確保 （通信で実施する科目のみ）					
⑭学修課程の管理方法 （通信で実施する科目のみ）					
⑮学生等に対する評価 （評価基準・評価方法等）	毎回の課題（授業コメント）30%、期末レポート（3000字）70%				